

議題3 経済分析WGでの議論について

経済分析WG 開催成果

- 費用便益分析の評価手法の精緻化に向け、令和5年度に「**経済分析WG**」を設置。一方で、費用便益分析に限らず多様な観点から評価する機運の高まりを受けて、**従前の経済分析手法に依らない河川事業の評価のあり方や流域治水に係る諸施策検討にあたっての経済分析の活用方針**について、官学関係者で議論する必要が生じた。
- 今後検討を深めるテーマを定めるために、令和7年度に「**経済分析WG 準備会**」を2回開催。

＜今後議論を深めていくことを検討するテーマ案＞ ※研究会にて公表

- ・治水安全度向上による地域経済の発展
- ・施設の維持管理を考慮した評価手法
- ・二酸化炭素排出削減効果
- ・流域治水に係る諸施策検討にあたっての経済分析活用の方向性

- 令和8年7月に、今後の議論テーマに沿って「**経済分析WG**」を開催。

第1回

日時: 令和7年12月1日 @京都大学

- 議題: ①河川事業の計画論等について(国交省)
②治水安全度向上による地域経済の発展(大西先生)
③関心事や問題意識の意見交換

歴史的なインフラ整備がどう社会の発展に寄与したかに関する研究が最近出ている。長期的な便益評価が求められている。

住宅の湛水時間が延びることによるカビ発生の健康被害。氾濫による化学物質拡散の評価。

第2回

日時: 令和8年3月9日(月) @東京

- 議題: ①WGにおける今後の議論テーマ案と進め方(国交省)
②家屋の復旧過程被害の推計方法(国交省)

2つのテーマは重要なキーワードを端的にまとめていて画期的。

テーマについて学術的な取組を紹介できる。

被災者生活再建支援制度のデータの分析および仮住まい期間の推定は、説得力があった。

今後の議論テーマ

①治水安全度向上による地域経済への貢献度の定量的分析

歴史をひもといて施策を評価する試みは都市経済学の中でもホットな分野。話題提供することも可能。

取組方針

- ・関連する既往研究について情報提供
- ・治水安全度向上による地域経済への貢献度の分析の可能性を検討

②スモールスケールでの浸水リスク見える化の取組と合意形成ツールとしての経済分析手法活用可能性の検討

10年に1回程度といった比較的高頻度降雨であれば、住民もイメージがしやすくリスクを自認しやすい。

取組方針

- ・国交省の取組状況を定期的に報告
- ・本WGとの共同研究の可能性を検討

経済分析WGでの主な意見

数量都市モデルを用いることで、政策シミュレーションができる点が有用。災害リスクや立地選択の分析への応用可能性がある。

受益者と実施主体が近く、住民が自分事化しやすい。単に田んぼダムや貯留施設を整備するよりも、地域住民や関係者が自分たちの課題として捉える状態をどう作るかに価値がある。